

地域の皆様の生活に密接に関係する課題からワクチン接種、アフターコロナを見据えた新しい経済・社会のあり方まで、委員会では幅広い質問を展開しました。昨年9月の予算特別委員会では地域で要望されていた信号機の設置について質問し、今年2月下旬、ついに設置実現にこぎつけました。また、コロナ禍で注目の集まるテレワークやワーケーションについての質問では、道の積極姿勢を引き出すなど、今まさに必要な施策の推進に取り組んでいます。

令和2年 予算特別委員会

○交通安全について

わたなべ

地元東区の交差点で7月に衝突事故が発生した。この交差点には信号機が設置されおらず、以前から住民により信号機の設置が要望されていた。事故を未然に防ぐ上で、信号機は切り札になり得ると考えるが、緊急を要する信号機の設置要望にどのように応えていくのか。

交通規制課長

警察庁が示した信号機設置の指針に基づき検討を行っており、より必要性の高いものから設置している。必要性が低減したものは、真に必要性が高い場所に移設するなど、効果的な整備を推進していく。悲惨な事故を防止するためには、交通安全教育の充実を図ることも重要なと考えている。

自立支援担当課長

令和2年4月時点では、何らかの理由で休止している子どもの居場所は71か所。5月に実施した緊急アンケートでは、感染リスクと闘いながら活動を継続していることや再開に向けて尽力していること、衛生用品やボランティアの確保などに苦慮していることなどを伺った。今後とも、運営を支援する団体と連携し、感染拡大の状況に応じて適宜実態把握に努める。

経済部長

今般の補助事業の申請状況などを鑑みると、感染症の収束が依然として見通せない中、テレワークに対する道内事業者の関心が高まっているものと考えている。引き続きこれらの取り組みを積極的に進め、今後も国の第3次補正予算で措置される施策を活用するほか、テレワークのさらなる普及と定着が図られるよう、効果的な施策の検討を進めていく。



○子どもの貧困対策について
わたなべ 道が3月に策定した第2期「北海道子ども対策推進計画」で、子ども居場所を通じた各種支援策が各居場所に位置づけられている。子どもの居場所は行政の運営だけでなく、任意団体やNPO法人、社会福祉法人など民間による運営が多くなっているが、新型コロナウイルスの影響で苦労している団体も多い。道は現状をどのように把握しているのか。

令和3年 経済委員会

○テレワークの普及定着について
わたなべ 道は道内中小企業の経済産業局や道内金融機関などとも連携し、PRやマッチング等の支援をいただく。今後もさまざまな関係機関や団体との連携を積極的に推進し、魅力ある北海道型ワーケーションを展開できるよう取り組んでいく。

渡邊議員とともに北海道発展に全力!



鈴木 直道

渡邊道議には地域活性化への情熱と行動力で、日頃から道政運営を支えていただいている。丘珠空港の利活用と活性化をはじめ地域の振興に力を尽くされている渡邊道議のご活躍に、心から敬意を表します。今後も渡邊道議とスクラムを組んで、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束と北海道の発展に全力で取り組みます。

日本犬ぞり連盟特別顧問に就任!!



中央児童相談所を同僚議員と訪問

札幌市選出道議が集まりコロナウイルス感染症の対策を協議

児童相談所の野沢所長と意見交換

各種団体と意見交換会を行い道政に反映

経済常任委員会道内視察【函館】(R2.8.26~28)



ジョブカフェ北海道で意見交換



中沼浄水場の現地視察



サイコロキャラメルで有名な道南食品



新函館北斗駅駅長による利用状況等の説明



モンティーユ社が手掛けるワイン用のぶどう畠



フランスから来日したバティスト・パジェスさんと

新幹線・総合交通体系対策特別委員会 道内視察【釧路・十勝】(R2.8.19~21)



釧路空港の運営状況等を調査



交通政策の取り組みについて上士幌交通ターミナルを視察